みどりの翼 WING

渡りの秋

秋が巡ってきました。社会情勢は先が知れませんが、巡る季節は確かで、懐かしくもあります。年を重ねる度にその感を強くしているのは私だけでしょうか？

食欲の秋、運動の秋、芸術の秋……、さまざまな秋がありますが、野鳥の世界では「渡りの秋」です。日本野鳥の会が日野市内の小中学校に配布したポケットブック『私たちの日野市の野鳥』の「季節ごとの見どころ」に沿って、この時期の渡りを解説してみましょう。

〈ヒヨドリの渡りを見よう〉

野鳥は鳥目ではなく、多くが夜に渡ります。渡りで危険なのは悪天候ですが、太陽を背にして羽ばたき続けるのも大変です。体温上昇を免れるにも、タカやハヤブサの襲撃を避けるにも、夜が有利です。

例外として、渡っている場面を目にすることができるのがヒヨドリ。日本近辺にしか分布していないはずのヒヨドリが、どこからどこまで移動しているのかはよくわかっていませんが、9月下旬～10月中旬ならヒヨ、ヒーヨという声でも気づくことができます。波状に飛びながら数十羽から百羽を超える群れになって、南か西に向かうはずです。天気が良い朝、午前9時頃までが多いので、一気に長距離を移動するのではなく、日が高くなるとそこまでという短距離移動を繰り返しているようです。

イラスト　水谷高英

〈夏鳥を探そう〉

秋の夜、山地で子育てを終えたオオルリやキビタキが冬を越す東南アジアを目指します。北海道からも東北からも旅立ちますが、一晩で越冬地までは行けません。明るくなると降りて夜に備えます。繁殖後はさえずらないし、地味な若鳥や雌が多いので、庭にいても気づかれないでいることが多いようです。日野市内では、神社やお寺、公園などまとまった木がある緑地で探すとよいでしょう。大きさはスズメほどですが、飛んでいる虫を食べるのでスズメより飛び方がすばやいことで気づくことができます。

〈冬鳥を探そう〉

多摩川や浅川には、ロシアからカモたちが渡ってきます。雄が派手な色彩に衣替えできていない（雄は冬に求愛するため晩秋には派手になる）と、1年中見られ、1年中地味なカルガモに似て見えますが、カルガモはくちばしの先が黄色をしているので、そうでなければ冬鳥のカモの可能性が高いと言えます。細長い翼のユリカモメもロシアから飛来するし、住宅地でも10月中旬以後からジョウビタキ、ツグミなどの冬鳥が見られるようになります。なお、日本野鳥の会のホームページ、「見つけて渡り鳥」http://www.torimikke.net/ では冬鳥情報を募集、公開しています。

文
（公財）日本野鳥の会
主席研究員　安西英明

緑の募金
ご協力ありがとうございました

㈶日野市環境緑化協会と市の共催で４月、５月を推進期間として行なった緑の募金の総額は、1,859,780円になりました（９月９日現在）。

この募金は、東京緑化推進委員会へ納入後、その45％が㈶日野市環境緑化協会に還元され、まちの身近な緑化として、公共施設等の花壇用花苗購入等に活用させていただいております。

ご協力ありがとうございました。　（Ｓ・Ｎ）

合計　1,859,780円
内訳　自治会＝892,197円、老人クラブ＝119,578円、市立小・中学校＝19,527円、私立幼稚園・保育園＝52,347円、団体・事業所＝489,559円、一般・街頭募金＝148,227円、市役所機関＝138,345円